

令和元年11月1日(金) 第5校時 指導者: HRT 学級担任 (T1)
ALT (T2)

- 1 単元名 「Alphabet ～新本小クイズを出し合おう～」
教材名 『Let's Try!2』 Unit 6 「Alphabet」 アルファベットで文字遊びをしよう

2 単元の目標

- 身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- 身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。 (思考力・判断力・表現力)
- 相手に配慮しながら、アルファベットの文字を使って、進んで伝えようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・ 身の回りには活字体の文字に気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しんでいる。	・ 身の回りにはアルファベットの文字クイズを出したり答えたりしている。	・ 相手に配慮しながら、アルファベットの文字を使って、進んで伝えようとしている。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。
話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

5 指導上の立場

(1) 単元観

本単元は、身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の小文字とその読み方について慣れ親しみ、相手に配慮しながら、身の回りにはアルファベットの文字クイズを出したり答えたりするなど、アルファベットの文字について伝え合うことをねらいとしている。活字体の大文字やローマ字については、第3学年で学習しており、身の回りの物をアルファベットの大文字に見立てて探す活動も経験しているため、文字に対する関心は高まっていると考える。そこで、今回は校内の様子を撮影した動画を通して、身近にあるアルファベットを見つけたり、活字体の小文字を使って、クイズを出したり答えたりすることで、さらに文字に対しての関心を深め、次学年の「読むこと」「書くこと」につながる基礎を養いたいと考える。活字体の小文字は、大文字と読み方は同じでも字形が異なるため、大文字よりも難易度が上がる。そこで、チャンツやゲームなどを通して字形とその読み方を合わせて楽しく身に付けられるように工夫する。

また、単元ゴールを、新本小学校の中でアルファベットを見つけ、3Hintsクイズにして出し合う「新本小クイズ」に設定し、身の回りには小文字の活字体を見つけたり、小文字の読み方に慣れ親しんだりする活動に必然性をもたせ、児童が主体的に学習できるようにする。その際、小文字の読み方あるいは小文字の字形のどちらかに偏って習得してしまうことがないように、教材の提示の仕方やゲームの内容に留意し、文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字かイメージできるようにしたい。

本単元を通して、小文字に対する理解を一層深め、「新本小クイズ」を作って出し合う活動を通して、自分たちが学んできたことを生かせる喜びを感じることができるようになりたい。

(2) 児童観 (男子4名 女子8名 計12名)

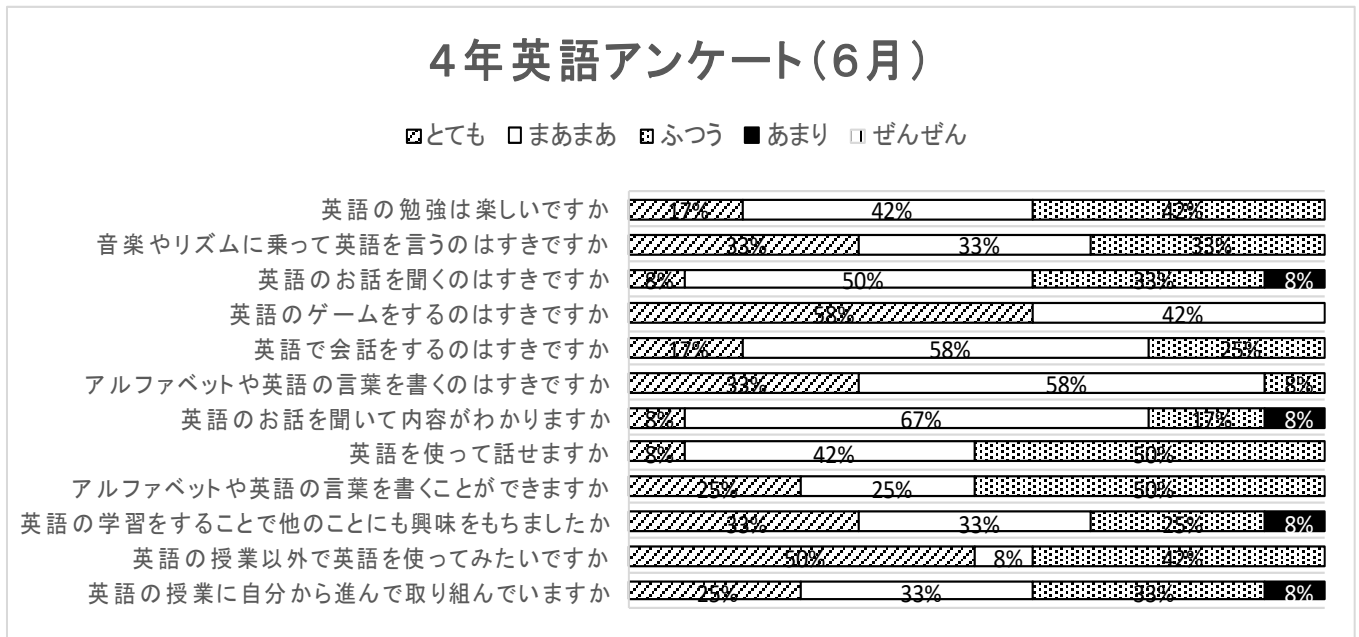
本学級の児童は自分の考えをもつことができると進んで発表をしようとし、友達の話もよく聞くことができる。しかし、自信のないことに対しては、消極的な学習態度が見られることもある。英語の授業でも間違っても発表しようとする姿を認めることで、少しずつ発表に対する意欲が高まってきている。

児童に行ったアンケートの結果(図1)から、「英語のゲームをするのが好きですか。」「音楽やリズムに乗って英語を言うのは好きですか。」「アルファベットや英語の言葉を書くのが好きですか。」という設問に対しては肯定的な回答が多く見られた。

本時では、児童が楽しくアルファベットを学習できるように、「アルファベットクイズ」を言語活動として設定した。まず、校内の様子を撮影した動画を見て、その中からアルファベットを見つける活動を行い、身の回

りのアルファベットに興味関心がもてるようにする。その後、動画の中で見つけたアルファベットを使って、クイズを出し合う。本時の活動を通して、より一層、活字体の小文字に対する興味関心を高め、単元のゴールである「新本小クイズ」の活動につなげたい。また、本時の体験が、次学年の「読むこと」「書くこと」の領域や英語絵本への関心につながり、今後の活字体を扱う英語学習への架け橋となるような単元にしたいと考える。

※図1：今年度6月に4年生に対して行ったアンケート結果（n=12）



(3) 研究主題との関わり

本校の研究主題「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」に迫るために本校の考える仮説を基に、次のような工夫をする。

仮説①について

単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合おうとするであろう。

活字体の小文字は、大文字と比較して難易度が上がる。ただ発音させるだけではなく、字形にも着目して楽しみながら習得できるようにしたい。本時は、第3時にあたり、前時までにはフラッシュカードやアルファベットソングを通して、字形とその読み方を合わせて習得できるように学習している。本時では、「アルファベットクイズ」を作って楽しむ場面を設定することで、何をクイズに出そうかという出題者側の思いと、答えのアルファベットを見つけないかという解答者側の思いを両方の立場で伝え合う経験をする。これにより、今までに習ったことを使って、読み方が分かる喜びを感じたり、文字の面白さに触れたりすることができるようにする。そして、出題者側と解答者側が英語のやり取りを楽しむことができるクイズという言語活動を通して、自信をもって英語を話す姿を期待したい。

仮説②について

学びのつながりを意識して単元(新本オリジナル)を構成すれば、本物で必然性のある言語活動が生まれ、児童は主体的に学習に取り組むであろう。

本単元のゴールとして「新本小クイズ」を設定している。単元の前半では、フラッシュカードやアルファベットソングを帯活動として取り入れ、十分にアルファベットの小文字とその読み方について慣れ親しめるようにする。その後、アルファベットの小文字を使ったクイズを行い、「自分たちもアルファベットクイズを作りたい」という思いを引き出し、「新本小クイズ」を単元ゴールの言語活動として設定する。本時では、本校の先生が出てくる自作の動画を用いることで、その中から楽しんでアルファベットを見つけれられるようにする。その後、動画の中から見つけたアルファベットを使って、クイズを出し合う活動や教室内のアルファベットを見つける活動を行うことで、児童が慣れ親しんだアルファベットや表現を使って、主体的に学習できるようにする。

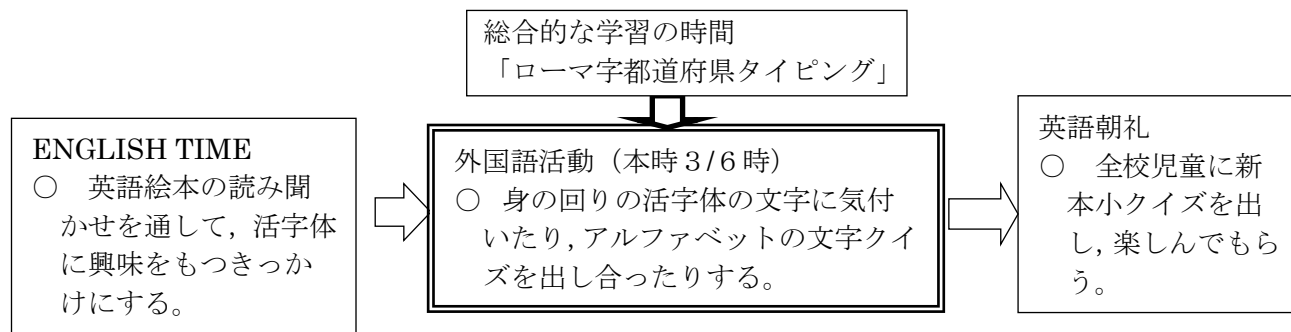
仮説③について

様々な人々と関わることによって、コミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

「授業を主に進めるHRT」「発音や発声の指導を行うALT」と、それぞれの特徴を生かした役割分担をして、ティームティーチングを行っている。自分の伝えたいことを英語で表現するには、新しい言葉が必要となってくる。クイズを出し合うやり取りの仕方については、主にHRTが児童の実態を把握しながらサポートし、活字体の小文字の読み方、新しい言葉の発音や英語での表現の仕方については、ALTが主に支援していく。

本時では、「アルファベットクイズ」の活動を通して、動画内にある小文字の表記を見つけて読もうとしたり、習った語彙や表現を進んで使おうとしたりするのではないかと考える。そして、自分たちも学校の中でもっとアルファベットを見つけないかという気持ちを持ち、より広い視野で文字に触れようとする態度を養うことができると考える。

6 関連構想図



7 本時案（第3時）

(1) 本時のねらい

- ・ 身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付く。
- ・ 身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ■ALT)	学習評価
1 Greeting	●■ 英語で挨拶をした後、気分や天気、日付、曜日などについて尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。	
2 Warm up “Phonics Alphabet Jingle”	■ 文字カードを示しながら発音することで、Phonicsの定着を図れるようにする。 ●■ リズムに乗って発音することで、アルファベットの発音を確認しながら、楽しく授業ができる雰囲気を作る。	
3 Review	■ フラッシュカードを用意して、小文字の a to z を復習する。 (1回目) a to z (2回目) z to a (3回目) ランダム	
4 Aim	Aim 身の回りのアルファベットを見つけて、クイズを出し合おう。	
	● 自作の動画を提示することで、動画内で見つけたアルファベットの小文字を使って、クイズを出し合うというこの後の活動の見通しをもつことができるようにする。	
5 Activity①	● 自作の動画の中で児童が見つけたアルファベット	◇ 身の回りには活字体の小

<ul style="list-style-type: none"> 動画を観て、アルファベットの小文字を見つける。 	<p>の小文字を黒板に掲示していくことで、見つけたアルファベットの小文字を共有できるようにする。 (動画の中の英語を見つける)</p> <p>A: Stop! A: Look! It's C-a-n-o-n. T: Yes. Please say after again.</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>S: C-a-n-o-n. T: Who can read? B: Yes, キャノン. → 写真を貼る。 T: That's right. T: Next scene. . . .</p> </div> <p>■ アルファベットを見つけた児童に既習の英語表現で質問したり、全児童にスペルを復習させたりすることで語彙や表現の定着を図り、身に付いている英語表現を使ってやり取りができるようにする。</p>	<p>文字で表されているものがたくさんあることに気付いている。【知識・技能】(発言)</p>
<p>6 Demonstration</p>	<p>●■ ゲームのデモンストレーションをすることで、児童が活動の流れを理解し、楽しくクイズを出し合うことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈活動内容〉 動画内で見つけたアルファベットをお題にして、解答者側は、“How many letters?”や“Do you have~?”等の既習表現を用いながら、出題者側のお題を当てる。</p> <p>① ペアになる。(AB&CD) ② じゃんけんで勝った方(AB)から始める。 AB: How many letters? CD: (I have) five letters. AB: What color? CD: It's white. AB: Do you have “c”? CD: Yes. AB: Oh, It's “canon”. CD: That's right.</p> </div>	
<p>7 Activity②</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズを出し合う。 中間交流 	<p>■ キーフレーズを提示することで、クイズを出し合うやり取りがスムーズに行えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> • How many letters? • Do you have ~? • Yes / No. • That's right. / Close! </div> <p>● 中間交流の際に、どのような質問をすれば答えが分かったかを問い、質問の出し方の工夫に気付けるようにする。</p> <p>● ペアを変えて再度クイズを出し合うことで、中間交流での友達のやり取りのよいところを取り入れながら、よりよいやり取りができるようにする。</p>	<p>◇ 身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。【思考力・判断力・表現力】(やり取り・記述)</p>

8	<p>● 教室内でアルファベット見つけをすることを提案し、アルファベットの小文字への関心がさらに高まるようにするとともに、次時への意欲が高まるようにする。</p> <p>●■ 児童が見つけたアルファベットについて質問することで、他の児童にも身の回りでたくさんのアルファベットがあることに気付けるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T2: How many letters? C1: (I have) four letters. T2: Where is that? C1: Here! It's "puma". T2: Wow! That's great.</p> </div> <p>● 本時の活動を通して、思ったことなどを書くように伝える。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・次は自分たちも学校で小文字を探してみたい。 ・身の回りにはたくさんの小文字が隠れていることがわかった。 ・他の場所に行ったときにも小文字を探してみたい。 ・クイズでは、習った表現を使えたり、文字の読み方が分かったりしてうれしかった。 	
9	<p>● 児童の活動の様子でよかったところを称揚することで、児童の英語への興味や関心をより高められるようにする。</p> <p>■ アルファベットの発音や形に関する気付きを伝えることで、アルファベットへの学びを深められるようにする。</p> <p>●■ 身の回りにはたくさんのアルファベットがあるということに気付いて、「もっと見つけてみたい」という児童の振り返りを再度取り上げ、次時への意欲につなげることができるようにする。</p>	

(3) 板書計画

